

大英博物館の挑戦

大学院主催 高度博物館学講演会

院友学芸員に求められるもの

国学院大学大学院主催の「高度博物館学教育の必要

「高度博物館学講演会」が、

10月9日午後1時から午後4

時40分まで渋谷キャンパス

120周年記念1号館110

5教室で開かれた。

鈴木靖民大学院文学研究科

委員長・教授の開会挨拶の後、

知識の向上が述べられた。

続くティモシー・クラーク

大英博物館日本美術担当長に

よる講演「ひらかれた大英博

物館」では、伝統ある大英博

物館が、来場者との新たな関

わりを試みている実例が話さ

れた。BBCとタイアップし

たラジオ番組「世界の歴史を

100点の収蔵品で語る」で

は毎週一点を取り上げ紹介す

ることでも来場を促し、また、

朝日新聞社の助成で運営され

る第3展示室では、マンガや

Power of DOGUな

どの実験的な展示が行われて

いることが報告された。

ウェブ利用が増えるとか来場

者が減るのではないかとこの

質問には、ウェブは入口にす

ぎず、もっと見たくなるため

ではないかと答えた。

休憩後、「博物館の歴史」

の演題で電気通信大学UEC

コミュニケーションミュージ

アム学術調査員の高橋雄造氏

により博物館とは何かにつ

て語られた。かつて王国の宝

物庫であり、特権的なもの

だった施設が国民の教育を目

的とする施設になっていった

過程を説明。今後の博物館に

ついては、スミソニアンにお

けるエクスターナリスト展示

メッセージ展示などが述べら

れた。

最後に大宰府天満宮文化研

究所主管学芸員の味酒安則氏

(昭53卒・86期生)による講

演「近未来の神社博物館」で

は、大宰府天満宮の博物館と

隣接する九州国立博物館の現

状が具体的に述べられ、今後

神社の学芸員に求められるも

のは、伝統文化の継承や美意

識、ネットワークであると結

ばれた。

大宰府天満宮の麒麟の像は、

江戸時代に近隣住民が一對奉

納したものだ、暮末にクラ

バー邸で有名なクラブが訪

れ、譲ってほしいと頼んだ。

奉納されたものは譲れないと

断ると、クラブはレプリカ

を作成して自宅に置き、それ

を見た友人のビール醸造業者

が横浜で始めたビール会社の

社名とマークを「麒麟」とし

た。麒麟像は太平洋戦争末期

に供出されたが、文化理解

がある軍人によって雄の麒麟

は戻されてきた。しかし雌の

麒麟はついに戻ることには無

かった、という逸話が印象を

残していた。

この講演会は、文部科学省

が行う、平成21年度「組織的

な大学院教育改革推進プログ

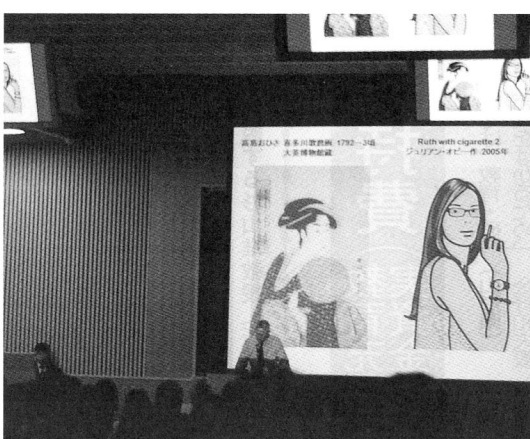
ラム」(大学院GP)に採択

された「大学院文学研究

科史学専攻の「高度博物館学

教育プログラム」活動の一環

として実施された。



新しい展示方法の試みを解説するクラーク氏